

きりたんぽラウンド(R7.1.11) in akitaの報告

秋田県事務局

令和7年の幕開けとなる「きりたんぽラウンド」は、県内外を含め20名を超える参加をいただきました。前日までの最強寒波が心配されましたが、当日は晴天に恵まれました。

冬休み終了間近の休日にもかかわらず参加された皆さんの熱意ある姿は、まさにラウンドの目的である「学校体育の充実に向けた熱い語り合い」でした。

秋田ラウンドテーマ

「体育嫌い」を考える

1 実践発表「第40回秋田県学校研究大会本荘由利大会に向けた取組について」

〇本荘由利教育研究会保健体育部会 由利本荘市立本荘北中学校校長 菊地 一弘先生

秋田県では、学校体育に関する指導の充実等を目指し、2年に一度、県学校体育研究大会を開催しています。令和8年度に大会を開催する教育研究会からは、今年度の研究会の取組や地区の児童生徒の体力等の現状、そして全県大会に向けた研究主題（案）「運動やスポーツに親しみ、多様な関わりができる保健体育学習」にいて発表をしていただきました。発表で示されていたキーワードから、学習指導要領の趣旨を踏まえた実践が進められていることや、体育研究会の先生方の熱心な姿勢による研究体制づくりが進められている様子を強く感じました。



2 講義 「体育嫌いを考える」

〇岩手大学 准教授 清水 将先生

「体育が嫌いで何が悪い？」という意見を持つ方は少なくないと思います。しかし、我々体育教師はそのことをそのまま見過ごすわけにはいかないと思います。そのような思いから、今回のテーマを設定しました。

清水先生からは、「体育嫌い」を様々な切り口から説明していただきました。とりわけ、よい体育授業の構造を基に、子供を叱らないようにする授業の構え（規律）、子供の安全・安心を担保する雰囲気づくり、勢いを加速させる授業の組み立てなど、明日の授業から即実践できる大事なポイントを教示していただきました。

先生がまとめでお話しされた、発達の最近接領域に基づく、「子供のできる経験を増やす」という体育の学ばせ方・教え方は、まさに本ラウンドの鍵となるものでした。



3 講義・演習「楽しさを深堀する」

〇桐蔭横浜大学 教授 佐藤 豊先生

〇日本女子体育大学 教授 高橋 修一先生

「楽しさ」「喜び」の構造を捉えながら、楽しさを深く味わうこととはどういうことなのかを考える、そこからワークショップがはじまりました。

佐藤先生や高橋先生からは、楽しさを深く味わうためには、「その子なりの楽しさや喜び」の観点から、一律ではない子供やる気スイッチをどう押すかが大切であることや、学習指導要領改訂の話題を交えながら体育の本質的な学びについてもお話していただきました。

演習では、そのお話をベースに、選んだ領域の楽しさや特性を押さえながら、領域特有に味わえる楽しさの概念知、それを味わうことができるようになるための指導内容を重点化していく作業を行いました。「楽しさの深堀り」、この言葉もまさに、体育嫌いを考えていく上での重要なキーワードとなるものでした。

3人の先生方が、講義・演習において、それぞれ「体育嫌い」という一本の横ぐしを通していただいたおかげで、一つ一つの言葉が腹落ちするものであり、あっという間に時間が過ぎた充実した研修ができました。

講師の佐藤先生、高橋先生、清水先生、発表者の菊地先生そして参加者の皆様のご協力のおかげで、今年度も有意義なラウンドができました。本当に、ありがとうございました。 【事務局】